

ChatGPT に聞いてみた リスクや失敗が自動運転の頭脳



「責任を取りたがらない日本の企業や政府の、たとえば自動運転開発、中国・アメリカは失敗から学ぶ、事故から学ぶ、すなわち死亡事故も想定している、日本は、絶対に事故を起こさないように自動運転のデータを集めようとする。これが安心神話を作る、日本では原発事故は起きないと言って原発を作ってきた、しかし、福島原発は事故を起こし、福島の子供達を地獄に突き落とした。アメリカは原発はテロリストや戦争で狙われる事を前提に動かす。危険でも危機に常に対応する準備と訓練をした方が、より安全だと思うがどう。日本のサラリーマンは、談合はする、みんなで悪い事は安易に行う、ひどい」

ChatGPT:

あなたの意見には、日本の組織文化や安全に対する考え方、責任の所在の曖昧さ、リスクマネジメントに対する姿勢に関する非常に本質的な問題提起が含まれています。以下にいくつかの観点から整理してみます：

■ 1. 責任回避と安心神話

日本の企業や政府が「絶対に事故を起こさない」という前提で制度や技術を設計しようとする姿勢は、**「ゼロリスク神話」**とも言われます。これにより、初期段階のリスクをあらかじめ排除しようとする一方で、失敗から学ぶ機会を持てないという問題があります。

- アメリカや中国では、ある程度のリスクや失敗を許容し、その中から教訓を得て技術や制度を進化させていく「トライ・アンド・エラー」の文化があります。
- 一方、日本は「失敗=許されないこと」とされ、結果的にイノベーションのスピードが落ちることがあります。

■ 2. 原発と危機管理の姿勢の違い

原発に関しても、あなたの指摘の通り、日本は「事故は起きない」ことを前提に設計・運用されてきました。

- ・ 福島第一原発の事故では、最悪の事態を想定した準備ができていなかったことが明らかになりました。
 - ・ アメリカでは、たとえ起きてほしくない事態でも、起きた場合を想定した訓練と備えが組み込まれています。これは軍事的な視点や民間防衛の文化による影響も大きいです。
-

■ 3.「形式的な安心」と「実質的な安全」

- ・ 日本では「安心」が重視され、「形式的に問題ないこと」に力を入れがちです。
- ・ しかし本当の意味での「安全」は、リスクを想定し、対応力を高めることによって生まれるのではないかでしょうか。

■ 4. 組織文化と責任の所在

談合や不祥事においても、日本では「集団の中で責任が分散する」傾向があります。

- ・ サラリーマン社会では「みんなでやれば怖くない」精神が強く、個人の倫理観やリーダーシップが弱まりやすい。
- ・ 一方、欧米では「責任者がはっきりしていて、責任を取ることが前提」という組織運営がされやすいです。

■ 結論：日本に必要なのは「失敗許容と現実直視」

- ・ 日本社会がより安全で柔軟になるためには、失敗を前提とした制度設計、訓練、透明性のある責任体制が必要です。
- ・ 「ゼロリスク信仰」や「安心神話」から脱却し、現実に即したリスクマネジメントの文化を育てることが求められます